

令和元年度(平成31年度)佐賀県立唐津西高等学校 学校評価結果

<p><b>1 学校教育目標</b></p> <p>創立112年の歴史と伝統を継承し、「21世紀を逞しく生き抜き、国際社会や我が国の発展に寄与するとともに、郷土と自然を愛し、地域社会に貢献できる心豊かな志のある人間の育成」を目標とする。そのため、「知・徳・体をバランスよく向上させることにより、高い人格の形成と、これからの社会の変化に対応できる資質の育成」を目指す。</p> <p>教育方針: First Choice「選ばれる西高を目指して」 教育姿勢: 師弟同行(共育)「ともに成長し合う」のもと、「地域に貢献できる」「朝(あした)に希望、夕べに感謝」できる人間性豊かな志のある生徒を育成する。</p>	<p><b>2 本年度の重点目標</b></p> <p>①これからの時代を担う志のある人材を育成するため、生徒一人ひとりの基礎学力の定着と家庭学習の習慣化を図るとともに、進路希望達成に向けて、夢と目標の達成に邁進するよう、愛情と使命感を持って行う。特に、進路実績の向上を図り、地域に信頼され選ばれる学校づくりを推進する。 ②「社会に開かれた教育課程」の理念のもと、地域の人的・物的資源を活用し、教職員とチームを組んで協働的な活動を行う。保護者や地域の力を教科指導をはじめ学校教育活動全体に積極的に生かす。 ③教職員は生徒・保護者・地域社会から信頼を得るために、常に危機管理意識を持って、日々の自己研鑽に努める。</p>
---	---

達成度 A: ほぼ達成できた  
B: 概ね達成できた  
C: やや不十分である  
D: 不十分である

**3 目標・評価**

**①進路実績の向上を図り、地域に信頼され選ばれる学校づくりを推進する。**

領域	評価項目	評価の観点(具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題(左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●学力向上	教科指導の充実	授業における教師の指導力を向上させる。 授業における生徒の理解度を向上させる。 授業アンケートの理解度の項目において「理解できている」と「だいたい理解できている」の合計を80パーセント以上とする。 効果的かつ効率的なICT活用能力の向上を図る。	教師の授業相互見直しにより、指導方法の工夫と開発に取り組む。 予備校や他校での研修会に参加し、授業の質の向上を目指す。 授業アンケートを実施し、生徒の理解度や満足度を高めていく。 模試分析を行うとともに、電子黒板・学習用PC、デジタル教材等を有効に活用した授業方法の研究と授業実践を行う。	B	研修や相互の授業見直しを通じて、個々の授業アンケートの授業満足度の結果も向上した。ただ、同時に生徒の学習に対する意識喚起が待たれ、今後もしっかり講演会や校外での体験を通じて醸成する必要がある。	キャリア教育を通して学習の意欲の喚起の取組も、効果的な教材作成と更新も必要である。また、研究授業等を実施し指導法の向上を図る。
	○進路指導	進路意識の向上	生徒自らが考え、納得のいく進路を選択させる。 大学進学希望者の割合をすべての学年で70%以上にさせる。	面談、進路講演会、進路のしおり、進路情報誌を通して、進路意識を高める。 Classiやスタディサプリを活用して、家庭学習の習慣化を図る。	B	進路意識の高まりは感じられるが、苦手科目の克服や家庭学習の取り組み方に課題が残る。Classiとスタディサプリをもっと有効活用し、家庭学習の時間の確保と習慣化を進めなければならない。	総合的な学習・探究の時間やキャリア教育のあり方を見直し、進路意識を高めるためにより効果的な方策を考えていきたい。
	進路希望の達成と大学進学実績の向上	3年生の進路希望実現100%を目指す。 国公立合格20名以上、福岡大、西南学院大、中村学園大の3大学合計50名以上の合格を目指す。	教科指導、小論文指導などの研修、模試の成績分析、進路検討会の実施等によって、教師の指導力向上と、きめ細かな進路指導を図る。 進路情報を定期的に生徒・保護者に発信する(進路だより発行)。 推薦・AO入試に向け早期に情報を与え、対策を行う。	今年度から3年生の2クラスを私立文系コースにしたため、希望する私立に挑戦する生徒が増えた。進路検討会、模試の成績分析会を適切な時期に実施することができた。国公立や難関私立の推薦・AO入試の合格者が増えることができた。	B	3年生に苦手科目があると、入試に間に合わないで、もったいlessnessを懸念した学習をさせた。また、先生方が研修できる機会を増やし、生徒を指導しやすい環境を作りやすい。	3年生に苦手科目があると、入試に間に合わないで、もったいlessnessを懸念した学習をさせた。また、先生方が研修できる機会を増やし、生徒を指導しやすい環境を作りやすい。
●ICT活用教育の推進	ICT活用による、学習効果・学習効率の向上	ICTの活用を通して、生徒の情報活用能力を高める。	生徒の学習活動に、電子黒板や学習用PC等を活用し、興味・関心を喚起し、主体的な学びにつなげていく。	B	教科特異性もあるが、ほとんどの授業で電子黒板や学習用PCを通じた授業が行われている。ただ、学習意欲や効果といった点で、まだ改善の余地が見られる。	今後は、生徒自身が主体的にPCを駆使して、授業に参加する授業実践が待たれる。	

**②志のある人材を育成するため、資質・能力や自他を大切にしている感情を身に付けるよう、愛情と使命感を持って行う。**

領域	評価項目	評価の観点(具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題(左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●志を高める教育	夢や目標の実現に向けて努力する教育活動の推進	生徒の興味・関心を引き出す教育の実践。 総合的な探究の時間の活用	様々なテーマで講演会を実施。 部活動の充実。 留学、ボランティア、体験活動などの積極的な紹介行事、講演会後の感想記入や振り返りの実践とポートフォリオの活用	A	キャリア教育を始め、ふるさと誇りに思う教育に係る講演会など、多くの講演会を実施できた。また、「さが最高企画甲子園」や留学など積極的な活動が見られ、多くの成果があった。	今後は生徒の成長につながる研修や活動を取り入れられるよう、外部機関との連携や情報の収集に努めていきたい。
	●心の教育	マナー、モラル、規範意識の高揚	服装頭髪などの校則を遵守する生徒の育成。 「明るい挨拶、気持ちの良い挨拶」ができる生徒の育成。 校歌を大きな声で歌う生徒の育成。 その場に応じた礼儀正しい言葉遣いができる生徒の育成。 SNS等を適切に使用することができる生徒の育成。	年6回の全体指導のみならず、日頃から声掛け指導を行う。 朝の登校指導や校内で生徒達とすれ違う際、先に挨拶するよう呼びかける。 部活動、生徒会と協力して、大きな声で歌う雰囲気を作る。 職員室等に入室する際など、管理棟での言動については特に重点的に指導する。 情報モラル講演会を年2回実施し、注意喚起する。	B	年6回の服装頭髪指導を実施した。各学年、模試後事後指導も行ってきている。朝の挨拶指導、授業で生徒へ声を掛けるなど、その都度指導してきている。特に、SNS等の使用については、問題が起きているからではなく、機械を見つけて注意喚起していきたい。	事前指導よりも事後指導がメインとなっている。登校指導、授業で生徒へ声を掛けるなど、その都度指導してきている。特に、SNS等の使用については、問題が起きているからではなく、機械を見つけて注意喚起していきたい。
	命の大切さ	命の大切さについて常に考える姿勢や態度を養うとともに、広く人権意識の高揚に努める。	命の大切さを学ぶことを目的とした毎年開催の「ハナコフェア」をはじめとして、テーマに関連した講演会等を実施する。 感想をまとめることで講演会を振り返る。	命の大切さを学ぶことを目的とした毎年開催の「ハナコフェア」をはじめとして、テーマに関連した講演会等を実施する。 感想をまとめることで講演会を振り返る。	B	児童文学作家を招いた講演会を実施したことによって、命の大切さについて深く学ぶことができた。このこと、日常生活に実践できるように、授業や行事等を通じて啓発していく必要がある。	次年度は講演会の協力を得ながら、命の大切さについて生徒の心に響く内容を実施したい。講演だけでなく、集まり等を通して心に訴える話を、生徒に対して行う必要がある。
●いじめの問題への対応	豊かな人間性の育成	いじめ0を目指す。 自己理解を深めることで、他者理解ができる生徒の育成。	学期1回のアンケート、個人面談、三者面談を利用し、いじめの芽を早期発見する。 自己肯定感を育てるために、小さな事であっても大きく褒める。	B	学期に1回のいじめアンケートを実施した。アンケートでは生徒からの申し出により発見した。生徒からの申し出や指導をしているうちに問題が大きくなってしまった。全職員の情報共有は大切であると感ずる。	どんなに些細なことであってもアンケートに書いてもらえば、事がいい方向へ進んでいく。全職員の情報共有は大切であると感ずる。	
教育活動	●健康・体づくり	基本的な生活習慣の確立	遅刻者0を目指す。 長期欠席者0を目指す。	毎朝登校指導をしながら声を掛け、気になる生徒については、早目に担任との情報交換を行う。 毎日の欠席者を把握し、担任との情報交換を密に行う。	B	遅刻者数は減少傾向にあるが、特定の生徒が遅刻や欠席を繰り返している。遅刻や欠席者も、登校する日は挨拶することができると、一日学校生活を送ることができている。	遅刻・欠席については、家庭の理解と協力を得る必要がある。朝のスタートや出席率の向上を図る。また、職員間での生徒情報の共有を図る。
	心と体の自己管理	各科目健康診断後の受診率を上げる(歯科は4割、視力・眼科は6割を目指す) SEI-NETを利用した健康状況調査の導入を通して、生徒の心身の健康状態の把握に努める SCの活用	学校医との連絡を密にして、受診勧告及び啓発活動を充実させる。 各診療科を受診しやすいように、部活動期間に未受診者の一覧表を渡し、配慮を依頼する。 生徒の保健室利用状況等について、毎月の学年別報告書、週1回のクラス別報告書を行う。 各学年と連携し、心の不安定な生徒に対して、SCと効果的な面談ができるよう体制を整え、支援する。	A	健康診断後の受診については、学年別や保健室の皆さまに協力していただき、昨年より受診率が向上したのもありました。また、SEI-NETを利用した健康状況調査を実施することで、より詳細に生徒の心身の状況を把握し、支援に役立てることができました。また、SCとの面談は、SCの積極的な協力効果的な面談ができました。	自己健康管理の向上を目指し、保健だよりでの活用や、集まり等を通して感染症等の防止を図る。また職員間での生徒情報の共有を図る。	
	○部活動	部活動の活性化	全校生徒の部活動参加率を100%に近づける。 部活動を通して、学校を活性化させる。	部活動の活性化を推進する。 部活動の活動内容を生徒会新聞等で紹介することにより、部活動生徒が率先して学校をリードする雰囲気を作る。 学校減ともなう、部活動の再編を行う。	B	過去数年間継続して、部活動参加率90%を維持している。ヨット部の九州優勝や全国大会入賞、ボート部女子個人の九州大会優勝。また、ボート部や空手道・水泳の個人競技も昨年度に続いて九州大会に出場し好成績を残した。部活動の再編編成を行うことができた。	部活動を安全・活発に行えるようサポートを行う。生徒会新聞の記事に部活動成績を取り入れ、中高校向けの新聞を作成するなど、生徒主体の活動を促すために、生徒会が中心となって盛り上げていく。
○図書館利用	図書館の利用と読書活動の推進	生徒に親しまれ、職員の役に立つ図書館にする。 生徒による図書館活動を充実させる。 生徒の読書の習慣化を図る。	生徒の希望図書を購入し、各種企画を充実させる。 開館時間を毎日、「朝の読書」用の本の貸し出しに積極的に対応する。 朝の読書を毎日実施することやクラス読書会を実施する。 図書館だよりを隔月発行する。(年6回以上)	B	図書委員による本の貸し出し、返却、蔵書整理やイベントなどの図書紹介の企画や読書イベントなど、積極的に活動していった。「朝の読書」時間は、各学年の読書量を増やすとともに、朝の読書に合わせた読書会や読書コンテストを実施した。また、百人一首大会を12年生全員によるクイズ形式を継続し、生徒会と協力して生徒自身が運営を行うことができた。図書館便りも、新刊案内を中心に毎月発行することができた。	図書館の活用は、来館する生徒が限定されている。本の貸し出しは、特に2年生が減少している。図書館が生徒にとって居心地の良い空間になっているが、その際、読書量を増やすための読書会や読書コンテストを実施し、読書会を継続していかなくてはならない。朝の読書の在り方について改善を行い、本の貸出数を増やす。	
○交通安全教育	交通安全教育の促進	交通事故0を目指す。	交通安全についての講話を実施する。 転校マンナーの指導を徹底することで、交通マナーアップにつなげる。	B	年度当初に自転車検閲を実施した。今年度は、マナーアップモデル校であったため、スタートマンによる交通安全教室を実施でき、交通事故の恐れを自分の目で体感できた。	接触事故の報告はあったが、大車には至らなかった。今後も、交通ルールとマナーを守ることが自分の命を守ることにつながることを伝えていきたい。	
○保健指導	環境美化の推進	生徒の環境美化への意識を高める。 安全かつ衛生的な環境を維持する。	保健委員、環境美化委員と連携し、水拭き等の掃除の徹底を図る。	B	安全点検を毎月実施して、不具合のある所は早急で連携し、補修等を行った。環境美化においては、関係の生徒や生徒会委員の協力で掃除の徹底を呼び掛け、校内美化に努めた。	環境美化委員の役割を再度検討し、掃除の徹底を図る。また掃除区域の見直しをし、より効率的な清掃活動を目指す。	

**③地域社会と連携し、開かれた明るい学校、信頼される学校をつくる。**

領域	評価項目	評価の観点(具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題(左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	校務等の効率化の促進	各分掌間の連携及び情報共有を図り、効率的な業務への取り組みを推進するとともに、教職員の時間外勤務勤務の削減を推進する。 休暇取得週間や学校閉庁日を設定し、全教職員に年次休暇取得目標を最低10日以上とする。 全ての部活動において、年間104日以上の休養日を目指す。	会議の効率化、事務の合理化、行事の精選を年間を通じて検討し、実行する。 学校評価及び業務の「見える化」による校務分掌を見直し再編を行う。 校務サーバーの整理。 週1回の定時退勤推進日(基本的には月曜日)の推奨。 部活動において、週休日祝祭日における休養日の推進を図る。	C	会議の効率化、行事の精選については、新たな行事が追加され、なかなか進まなかった。定時退勤推進日設定の効果はほぼなかったが、年次休暇取得期間を設定したことで、休みを取りやすい雰囲気となった。部活動においては、年間104日以上の休養日取得は達成できなかったが、週2日以上の休養日取得率は82.4%であり、次年度に向けた意識改革を図ることができた。	特定の職員の勤務時間が長時間になっているので、各分掌と連携を図りながら、行事の見直しや校務分掌の再編を行うなど、業務の効率化及び効率化を目指し、働き方改革を進めていきたい。
	○学校経営方針	教育目標、経営ビジョン、重点目標の周知	本年度の重点目標を知っている保護者の割合を70%以上にさせる。	振興会総会、保護者会への参加率を向上させる。振興会総会や三者面談、学校ホームページ等を通して、機会あるごとに周知する。	B	本年度、学校ホームページを80以上の更新を行い、保護者からの評判も良かった。反面、振興会総会の出席率は良かったものの、重点目標を知っている保護者の割合は48%に留まり課題が残った。	出席率の高い振興会総会や本年度、更新を繰り返した学校ホームページを通して、今後も粘り強く情報を発信し、周知に努めていく。
	○開かれた学校づくり	体験入学及び学校説明会の充実 学校行事への保護者の出席率の向上 学校開放日における授業参観の実施	体験入学において、昨年度の参加者数を上回る。(平成30年度:生徒323名参加) 振興会総会の出席率を70%以上にさせる。(平成30年度:66.2%) 保護者の授業参観数を50名以上にさせる。	HPを通じて、本校生徒の活動や本校の特長を外部に発信する。HPの更新を適切に行い、内容の充実を図る。 「基本」の開催については、期日を定め、保護者が参加しやすい計画を立て、内容の充実を図る。 学校開放日を魅力的な内容にするともに、開催についての周知に努める。	A	振興会総会の参加率80%、中学生の体験入学については、昨年の参加者数を上回ることが出来なかったが、300名を超える中学生の参加を得ることが出来た。体験授業についても、参加した中学生に好評だった。	本年度も今年度以上に参加が得られるよう、工夫をしていきたい。特に、振興会総会については、出席率を向上させるべく、早期に発信して、目標の達成に努めたい。
学校運営	○1学年の目標達成	Change(変化) & Challenge(挑戦)の生活: あたり前であることをあきらめずに「基本的な生活習慣を身に付ける」 「規範意識を身に付ける」 「コミュニケーション力をつける」 学習面: やるべき事をやるべき時に「学習習慣を身に付ける」 「基礎・基本の確実な定着」 「授業や校外内行事への積極的参加」	基本的な生活習慣の確立(欠席・遅刻を少なくする)。 コミュニケーション力の向上(相手の気持ちを推し量る、挨拶、言葉づかい)。 主体的に行動する生徒の育成(自分で考え、行動する)。 部活動の積極的参加の奨励。 基礎学力の養成を行う(学び直しを含めて)。 学習習慣を身に付けさせる。家庭学習時間の確保をさせる。 学習目標の明確化(文理選択、前期からの国公立大学進学希望者の育成)。 「志」への取り組み(事前・事後)。 質の高い振り返りさせる(ポートフォリオを活用)。 授業や校外内行事への積極的参加をさせる。 資格取得の推奨。	生活面では、遅刻や欠席をする生徒も少なく、年間を通して落ち着いた生活を送ることができた。挨拶や言葉遣いについては、まだまだできていない生徒も多く、継続した指導が必要である。 学習面では、基礎学力の養成、学習習慣の定着を目標に指導してきたが、家庭での学習習慣の定着ができていない生徒が依然として多い。 総合的な探究の時間では、地域探究・学際探究、講演会等で行ってきた探究活動として進路意識を高めることができた。	B	次年度は、学習習慣の定着と、基礎学力の向上を第一の目標として、日々の課題のやり方や内容を工夫して学習習慣を身に付けさせる。オープンキャンパスなどに積極的に参加させて、具体的な目標に向けての進路意識の高揚を図りたい。	
	○2学年の目標達成	時間・空間・仲間(さんま)を大切に、進路開拓につなげる。 「時間を大切に」:スケジュール管理能力を高め、目標を達成する。 「空間を大切に」:学びの環境・学ぶ姿勢を整え、力を十分に引き出す。 「仲間を大切に」:自己理解・他者理解を深め、共に伸ばし合う。 「進路を開拓」:自身のキャリア、学びたいことを明確にしている。	手帳やカレンダーの活用を通して、先を見据えた行動ができる環境を整える。 課題一覧の作成や手帳の管理を通して、家庭学習時間の定着を図る。 「基本」講演会等に手帳と筆記用具の特許を渡し、学び取る姿勢を身に付けさせる。 相談の徹底・気持ちの良い言葉遣いなどを通じ、学ぶ環境を整える。 1回のKPT法を実施し、ポートフォリオの作成を促し、振り返りを改善につなげる。 「研修会」への参加や情報の収集を行い、大学入共通テスト・外部試験成績提出への対策を図る。	B	左記の具体的方策の実施に向け、週1回の担任を始め、日々の情報共有や、振り返りを改善に繋げるよう努めた。学年が協力し、生徒を支援する体制を整えることで、見直しを待ち計画の行動する生徒の育成を行うことができた。 1月のKPT法を実施し、ポートフォリオにまとめた活動を通して、生徒の自己理解を深めるとともに、教員側からの生徒理解にもつなげることもできた。 大学入共通テストへ向け、生徒へ最新の情報を伝えるように努めるとともに、生徒自身の情報収集力が高まるよう支援した。	生徒の進路系統別において、早期に教員支援チームを組み、対応していく。進路意識の向上・自己実現に向け、1学期に集中的な総合的な学習の時間を設定する。ルーブリック評価の改善を行い、より充実したものにしていく。キャリアパスポート、ポートフォリオ、スケジュール、学習先情報、自己PR、志望の動機等の作成を通して、生徒の自己実現に向け支援する。後援新聞電子版を活用するよう努めるとともに、大きな視野を持ち、社会と繋がるよう基礎を作る。	
	○3学年の目標達成	学習を中心とした生活習慣を継続する。下級生の規範となる。 遅刻、欠席をしない。きちんとした服装・頭髪をする。 挨拶、言葉遣い、掃除等を元気にする。 受験学力の更なる定着をはかる。 家庭学習の時間を確保するとともに工夫する。受験に对应できる学力をつける。 授業に集中する(学ぶ姿勢を維持する、寝ない)。落ち着いた学習環境をつくる。 出願計画の見直しを立て取り組む。 進路目標を達成する。 将来の夢・目標(高き理想)の達成に向け、最大限の取り組みをする。	各教師が設定した自己目標を実現する。 センター試験及び国公立大、西南学院大、福岡大、中村学園大等の入試問題について研究する。 休日の禁止について全職員が理解し、体罰のない指導を行う。 ICT教育機器を活用した教育を実践するとともに、校務処理能力を高める。	教科や校務分掌等において、前年度踏襲にならないよう、効率化や有効性の観点から工夫を凝らし、目標の達成を目指す。 職員会議等の場で、懲戒・体罰に関する周知を行い、職員の意識向上を図る。 ICT活用による情報の共有を推進する。	A	今年度から新しいカリキュラムへの取り組みを行って、結果を検証したい。職員会議や職員研修では、体罰やハラスメント、教育相談などについての研修が行われ、資質向上に役立った。ICTについても、今年度から導入した、スタディ・サプリの視聴を通して授業力向上に努めた。	今年度同様、来年度も様々な研修を通じて、資質や授業力の向上に努め、生徒の実態に合った効果的な授業実践が出来るよう努めたい。

**4 本年度のまとめ・次年度の取組**

教育方針の「First Choice「選ばれる西高を目指して」」をコンセプトに、全職員で組織的に、そして、協働的に教育活動に取り組んだ。特に、地域の人的・物的資源を活用し、保護者や地域の力を教科指導をはじめ学校教育活動全体に積極的に生かしながら、愛情と使命感を持って生徒指導に邁進した。3年間続いた学級運営で年度より4クラス体制となるが、新たな唐津西高校の発展に際し、グラントデザインのもと、来るべき社会である超スマート社会(Society5.0)を逞しく生き抜き、持続可能な社会の作り手として、ふるさと佐賀の郷土と自然を誇り思い、国際社会や我が国、そして、地域社会に貢献できる心豊かな志のある人間の育成に努めていく。

●は共通評価項目、○は独自評価項目